

# 行政視察報告

## 企画総務常任委員会

### 視察期間

平成十八年十月二十四日から

十月二十五日まで

### 視察先と視察事項

静岡県熱海市

・集中改革プラン（事業仕分け）について

静岡県伊東市

・防災対策について

### 視察概要

熱海市、人口四万二千人の国際観光温泉文化都市である。観光客は年間八百万人、宿泊者三百万人、年々観光客が減少しているという。いま、熱海市は財政が危機的状況にあつて、全庁挙げて必死に行財政改革を推進中という。

「集中改革プラン」（期間五年間）の内容事項は、ほぼ本市と同じで、民間委託等の推進、職員定数管理・給与等の適正化、事務事業の再編、整理、廃止、統合等の六項目。達成効果を金額で表示するなどプラン内容は綿密。参考にしたくなる点が多い。

熱海市が取り組む「事務事業仕分け

業」は、当時の市長が導入を決断。施策の事務事業から市単で一千万円以上を洗い出した千三百余件。平成十八年度はその内四百件を対象に、公募、県職員など選任の十名の評価委員が公開の場で担当者の説明を受けて、検証し仕分けるもの。その結果、不要一、民間委託五、改善実施六十七などを提言。削減経費は一億七千万円。職員の意識向上にもつながり効果があるとの評価で、今後、残りを実施するなど熱海市の財政再建の姿勢は他山の石としたい。

伊東市、人口七万五千人、花と海といで湯の観光都市である。

伊東市は東海地震の地震防災対策強化地域であり、周辺には津波、海底火山噴火等の災害も予想されている。

市街地を抜けた高台に、船の帆をイメージのガラス張り庁舎にまず驚く。平成七年新築で建設費一〇〇億円。

庁舎内ロビー横に八億円をかけた防災センターがある。災害対策の本部室、対策室、スタジオ兼放送室があり、防災機器は充実され、最新の防災情報システム導入、通信六〇回線確保など、いつ起きても不思議でない東海地震から

市民、来遊者の生命と財産を守る拠点整備を行ったとのこと。伊東市の防災行政の積極さを見聞した。

一方、市内一円が自主防災組織化され、十六の連合自治防炎会、百三十八の自主防災会がある。防災訓練は年二回、自主防災組織主体で実施、地域防災が徹底し市民の危機意識が強い。

災害広報の手段は、本市と同じく同報無線、CAVも重視、災害情報は三四分ですべて市民に伝えるという。行政、地域、市民一体の協働で防災対策を実践する先進地であった。本市が取り組む課題は多い。

## 文教厚生常任委員会

### 視察期間

平成十八年十月十七日から

十月十八日まで

### 視察先と視察事項

奈良県大和郡山市

・高齢者福祉事業について

京都府向日市

・子育て支援事業について

### 視察概要

高齢化率十九・六〇%の大和郡山市は、高齢者のための福祉サービス事業を展開しています。主な事業は、「食の自立支援（配食サービス）事業」として、調理が困難なひとり暮らしの高齢

者に週三回食事を配達するもので、同時に安否確認も行っています。また、「おげんきふれあい事業」として、高齢者の外出の機会を奨励し、生きがい対策のひとつとするもので、七十歳以上の高齢者を対象に外出の手助けをしています。本市では、高齢化率二十四・一七%、四人に一人が高齢者であり、高齢化社会における福祉サービスについて一考する視察でした。

向日市では、次代を担う子どもたちの健やかな成長を支援し、また子どもを持つこと、育てることに喜びを感じることのできる社会の実現に向けて、「子育て支援事業」に取り組んでいます。主な事業は、本年八月二十一日からスタートしました「病後児保育事業」は、お子さんが病気の回復期に向かっているものの、まだ保育所などに通えない期間で、保護者が仕事などで家庭で保育ができない場合に、診療所に併設した保育ルームで保育するものです。また、「ファミリーサポート事業」として、地域において育児の援助を行いたい方と育児の援助を受けたい方を会員として組織化し、育児に関する援助活動を行うことにより、仕事と育児を両立し、安心して子育てができるための事業です。これらの事業には多くの利用者があり、父母の立場に立った

きめ細かい事業の必要性を感じました。

建設経済常任委員会

視察期間

平成十八年十月十六日から

十月十八日まで

視察先と視察事項

- 鹿児島県いちき串木野市
- 地場産業育成について
- 企業誘致について
- 鹿児島県鹿児島市
- リサイクルプラザについて
- 宮崎県都城市
- 地場産業育成について

視察概要

いちき串木野市は鹿児島市の北西約四十kmで平成十七年十月十一日に串木野市と市来町が合併した面積約百一十一km<sup>2</sup>人口三万二千六百七十人の市です。

いちき串木野市はかつては「まぐろと金」の町であったが、金山は閉山となり、まぐろも他県の漁港に水揚げされ産業の転換をせざるを得なくなってきた。現在では、水産業から食品産業への転換を図るべく、市民、飲食業と一体となり開発された、まぐろの頭からのスープ、ラーメンを使用した「まぐろラーメン」がヒット商品となり、まぐろを生かした特産品の開発にも力

を入れていく。イメージづくりの祭り、イベント開催についても、行政が人員、補助金で応援し、業界、市民、行政が一体となり、まちづくりに取り組む姿勢が強く感じられた。

企業誘致では、総面積約六十%の西薩中核工業団地があり、現在十九社が操業している。その中で焼酎工場、かまぼこ工場の二社を視察したが、地元雇用も含め、地域の発展に寄与している様子が伺えた。

本市でも行政、市民が一体になり、自分のまちを活性化するという強い取り組みと努力が必要であり、企業誘致には積極的に取り組むべきだと痛感されました。

鹿児島市は人口約六十万人の県庁所在地です。リサイクルプラザは缶、ビン、ペットボトル、プラスチック容器類、紙パックを最新装置により選別、圧縮処理を行い資源化する施設であり、先進的に再利用の取り組みがされていた。学習室、展示室、見学コースがあり、使用可能な家具は市民に無償で提供されている。本市でも早くから分別収集をしており、「ゴミ行政については先進的であるので、市民の協力のもとにこみの減量化に取り組んでいく。

ちなみに鹿児島県の、ほとんどの自治

体がごみは無料とのことである。

都城市は宮崎県の南西部に位置し、人口約十七万人の自然に恵まれた都市で産業の中心は、農林、畜産であり農業産出額は全国五位、畜産のうちに肉用牛、豚、ブロイラーは全国一位となっている。地場産業として食品製造業、家具製造業があり、行政主導で都城ブランドマークを立ち上げ、全国にPRすることに、産業育成につながっている。最近ではインターネットショップ「よかもん都城」をオープンし、地場産業振興に成果をあげている。

首都機能対策・市街地活性化特別委員会

視察期間

平成十八年十一月八日

視察先と視察事項

- 石川県七尾市
- 七尾駅前第二地区第一種市街地再開発事業について

視察概要

七尾市は、人口約六万二千人の港町で、昭和六十三年より駅前再開発事業に取り組み始め、平成三年には「能登食祭市場」をオープンし、年間九十万人が訪れる街となり、平成七年には再開発ビル「パトリア」が完成しています。



みそぎがわ周辺

また、七尾駅と七尾湾を結ぶ街路事業を中心とした御被川（みそぎがわ）故郷の川整備事業も同時に行われ都市基盤整備も進んでいました。

七尾駅前第二地区第一種市街地再開発事業は、隣接する第一地区（パトリア）に続き行われた事業であり、七尾駅前再開発ビル「ミナ・クル」には商業施設やホテル、市の健康福祉部及び図書館が設置されるなど市民が集いやすい施設になっており、さらに本年度が最終年度であることから視察しました。

この事業については、計画当初より約二十年携わっている担当の七尾市建設部都市整備課駅前再開発室の田尻純